

「東京新聞」の「平和の俳句」の選者をしていた金子兜太氏が降りられた。ご高齢になったからであろうか、残念である。金子氏は自伝『語る 兜太』で、逞しく、ユーモアをもって生きた人生を著している。句界に大きな影響を与え、人々に勇気を与え続けてくれた。1944年、海軍主計中尉として南洋のトラック島に配属された。華々しい戦闘はなかったそうだが、兵站を絶たれ、多くの戦友が餓死していった。敗戦後、帰国する時、死んだ戦友が見送ってくれていると、駆逐艦上で「水脈の果て炎天の墓碑を置きて去る」と詠んだ。戦争の悲惨さを舐め、平和への篤い思いを抱き続けてこられた方である。金子氏が書いた「アベ政治を許すな」のプラカードは、駅前でのスタンディングの時に用いている。

金子氏に代わって、俳人の黒田杏子（ももこ）氏が選者になられた。ご活躍を期待したい。また、今月は夏井いつき氏が選者に加わっている。9月に掲載された句から。

「基地近し不気味な音亦（また）夏の宵 齊藤佳彦（よしひこ）（74歳）」
くいとうせいこう 浜松基地の教育機が同じコースで低空飛行し、旋回するそう。その音がより現実的な恐ろしさを与えるようになってしまった。> 私は大和市にしばらく住んだことがある。夜中に轟音を聞き、飛び起きたが、厚木基地の米軍の飛行機の爆音だと知った。沖縄の嘉手納基地に行った時、戦闘機がタッチ・アンド・ゴーの訓練をしていて、その爆音に驚いた。沖縄では、いつもこうなのだと思った。今、朝鮮半島では、轟音、爆音が轟いている。何としても、戦争だけは避けて、平和に向けた対話を始めてほしいと願う。

「痛え痛えと石の斉唱爆心地 野崎憲子（63歳）」
く夏井いつき 「痛え痛え」と叫ぶのは「石」そのものか、「石」のように焼け焦げた人々の嘆きか。詩語「石の斉唱」が「爆心地」の青空を覆う。> 広島原爆写真の中に、座っていた人の人影だけが石に残っていた写真があり、原爆の恐ろしさを伝えていた。安倍首相は北朝鮮の核実験を許さないと公言するが、核兵器禁止条約に署名する意思は全くない。唯一の被爆国であるのだから、核廃絶に向かって世界をリードする責任がある。50の国が核兵器禁止条約を批准したという。ここから、希望が始まる。続く国々が現れてくることを期待する。

「隠ぺいの弾（はじ）け飛びだす鳳仙花（ほうせんか） 岩倉幹郎（みきろう）（75歳）」
くいとうせいこう 隠した事が次々といっぺんに暴かれる。生まれれば一瞬ですんでしまう。かえって爽快なくらいだ。痛快といってもいい鳳仙花。> 花屋には聞いたこともない外国風の名前の花ばかりである。鳳仙花と聞き、子どもの頃見た、勢いよく弾ける花を思い出した。隠ぺいされたものが鳳仙花のように弾け飛び出したら、どんなに胸がすくだろうか。安倍首相は、臨時国会の冒頭で解散した。森友・加計問題の隠ぺいを狙っての解散である。野党が弱体化しているので、勝算との判断であろう。国会軽視、国民不在の政治に怒り心頭である。突如「希望の党」が台頭したが、安保法制、改憲の支持政党である。

「雲の峰我れに戦死の教え子無し 岩辺泰吏（74歳）」
くいとうせいこう 直接担任した子供たちだけで千人を超えるという元教員。教職五十周年に戦死の教え子がないのが誇り、日本中の教員の。> 港南台9条の会で山中恒氏が講演された。戦時中は、天皇のために死ぬ覚悟の「少国民」であった。戦後、自分たちをそのように教育した偉い人々が自決した後、自分も自決するつもりであった。ところが、誰も自決せず、手のひらを返すように民主主義を唱えたのに驚いたと話された。「教え子を戦場に送るな」という言葉が聞かなくなった。岩辺氏の先生のように教え子に戦死者を持たなかった先生もいたのだ。